

LA の Global studio との協働ワークショップ 映像作品「素描」と「Light Stinger」の撮影

栗原康行

分担協力 原田昌幸 加藤大香士

はじめに

近年、ネット配信技術の普及により映像（エンターテインメント業界）の在り方が日々進化している。視聴方法や供給方法に国境がなくなり世界中のコンテンツを携帯電話一つで観る事ができる世の中になった今、これからの人材にはグローバルな感覚・視野・価値観を身につけていることが必要不可欠な時代になる。

今後の将来を担う学生たちにグローバルな創造体験ができる機会を与え、自らの経験でこれからの映像コンテンツ・プロダクションの可能性やあり方を模索して欲しい。そこでRelativity school (Studio school) との本協働プロジェクトを企画した。

エンターテインメントのトップランナーであるハリウッドから現地で活躍する監督、俳優と共に学ぶ共働プロジェクトを実施する事によって普段学ぶ事の出来ない最前線の映像プロダクション・コンテンツのありかたや制作技術を学ぶ。学生は直接に上述スタッフと共同作業を行うことによって計り知れない刺激と教育効果を与えられたものと確信する。

開催日：2019年4月30-5月6日

開催場所：名古屋市立大学芸術工学部 薬学部

活動形式：(撮影) ワークショップ

参加人数：(ワークショップ 100人 公開時 200人)

成果品は2020年2月22日 イオンシネマワンダー

他で公開予定 (2020年1月現在)

招聘者 Matt Taylor, Ikumi yoshumatsu



写真-1 ワークショップの風景

ハリウッドスタンダードの制作技術や演技、ストーリーテリングなどプロダクションに必要な全般の知識を習得するワークショップを開催した(写真-1)。

また最新のデジタル技術を利用し日々進化しているハリウッドの映像制作技術と現状を学んだ。

アメリカ・ハリウッドにあるフィルムスクールStudio Schoolや海外で活躍する監督・役者との協働プロジェクトによりグローバルスタンダードな制作とは何か、撮影の知識、撮影における国際感覚を身につける事ができる撮影会となった。

日本独特の撮影(照明や演技、カメラワークなど)の型を破ることで学生達の海外への視野を広げ、さらには日本だけではなく国際的に物事を考えるモチベーションを与える効果が期待できたのではないかと考える。

カメラワーク、演技、ライティング、アクションコーディネートなど撮影に必要な段取り、モチベーション、グリーンバック撮影技術などを学びまたドローン撮影による先端技法などの講習会を実施した(写真-2、3、4、5)。



写真-2 素描 撮影風景 (芸術工学部キャンパスにて)

おわりにー成果と課題ー

学生が効率よく学ぶために「英語のための英語力」でなく「ある分野を国際的に修得するための英語力」が必要だと痛感した。また英語力だけでなく、ワークショップを通じて「本当の意味でのコミュニケーション力や質問力」がこれから活躍する次世代の若者に求められるということを感じた。

令和2年1月10日



写真-3 Light Stinger 撮影風景 1 (映像スタジオ)



写真-4 Light Stinger 撮影風景 2 (学部内施設にて)



写真-5 Light Stinger 撮影 (薬学部キャンパスにて)